

親守詩 取組事例1 小学校1年生

1 取り組んだ教科（領域、その他） 国語

2 どう取り組んだか（どう指導したか）

【授業のポイント】

例を示し、選択肢を与えることで全員が上の句を作れるようにする

【授業の流れ】

親守詩テキスト（無料ダウンロード可能）に沿って指導



【親守詩テキスト】

説明1 ♪ね〜んねんころ〜り〜よ この歌を知っていますか。（子守歌）

「子守歌」は親が子どもを思って歌う歌です。

逆に、子どもが親を思って歌う歌を「親守詩」と言います。

指示1 テキストにある親守詩を読みます。

1 つ目は教師が範読。2 つ目以降は上の句を教師、下の句を子どもに読ませる。

説明2 親守詩は五七五七七の言葉のリズムでできています。みなさんが毎日やっている五色百人一首（or 名句百選かるた等）と同じです。

皆さんが最初の五七五を皆さんが作り、おうちの方にあとの七七でお返事を書いてもらいます。

練習として、テキストにある作品の視写、と最後の五文字を考える活動を行う。

指示3 では、誰に向けて親守詩を作るかを決めましょう。親守詩ですから、お父さんかお母さんがいいですが、おじいさんやおばあさんでもかまいません。

それぞれの家庭の事情があるため「両親」に限定することはないが、あまり許容範囲を広げると兄弟やいとこに書く子が増えるため、本筋からずれる恐れがある。親に書けない事情がある子以外は基本的に「親」に向けて書かせる。

指示4 親守詩に使えそうな五文字、七文字の言葉を考えましょう。

（おとうさん／おかあさん／ありがとう／ごめんなさい／だいすきだ）

☞ 挙げた言葉を、五文字と七文字に分けて板書する。

この時、五文字の言葉を前と後ろに分けて2か所に板書する。

この時、すでに五七五で言える子がいればおおいにほめ、分解して板書する。

五	七	五
ありがとう	いつも（ほんを	おとうさん
だいすきだ	あそんでくれて	おかあさん
たのしいね	いつもえがおで	あははやく
おいしいね（よ	なんの○○が	
すきですか	いっしょに○○	

指示5 みんなが言った言葉をつなげて読んでみましょう。

「おとうさん あそんでくれて ありがとう」

「おかあさん なんの（あそび）が すきですか」（かっこの中は自由に変えて使える）

説明3 これで親守詩のできあがりです。友だちの作品でも、中を少し変えれば新しい作品ができます。おう

ちの方にお返事を書いてもらいますからね。どんなお返事がくるかなあって考えながらいろいろと作ってみましょう。

親守歌の取組事例

1 取り組んだ教科・領域 5年 道徳

2 どう取り組んだか（どう指導したか）

- (1) 学校で作成する。
- (2) 返歌を書いてもらう。
- (3) 学習公開日に発表会を開く。
- (4) 学級通信で紹介する。

(1) 学校で作成する

①趣意説明

お家の人に感謝していることを発表させ、感謝の気持ちを伝えるために親守詩を作ることを告げました。

②親守詩の作り方を教える。

「親守詩の作り方」の動画を見せ作り方を教えました。下記URLよりサイトに入れます。

<https://www.youtube.com/watch?v=dahBD3gA9n4>

③テキストをもとに作成させる。

「親守詩全国大会 公式サイト」よりダウンロードし印刷して活用しました。

(2) 返歌をお家の方に書いてもらう。

学級通信で周知し協力してもらいました。通信には下記のことを載せました。

趣意説明の文 大会の要項 詩の例 ワークシート

(3) 学習公開日に発表会を開く。

①サイトを作っておく。

パワーポイントでサイトを作っておき、当日に映し出しました。

②発表会をする。

上の句を子ども、下の句を保護者に読んでもらいました。保護者が来ていない場合は担任が読みました。

③感想発表。

友達の作品を読んで感じたことを書かせ発表させました。

(4) 学級通信で紹介する。

全ての作品を学級通信で紹介しました。

※事前に通信で紹介することを告げ「差し支えがある場合は連絡をください。」の文言も書きました。

親守歌の取組事例

1 取り組んだ教科・領域 5・6年道徳

2 どう取り組んだか（どう指導したか）

- ① 「私たちの道徳」の「亜属の幸せを求めて」を導入に使う。
- ② PTA 研修とセットにする。

(2) 私たちの道徳を使う。

「家族の幸せを求めて」のページを扱い、赤ちゃんの頃から今までを振り返り、家族に見守られて成長してきたことを確認しました。その後、家族っていいなと思うことを書き出しました。それらを発表し、一人一人、俳句を作りました。

その後、親守歌について紹介し、お家の人に返事の部分である下の句を書いてもらうように伝えました。

(3) 子育てがテーマのPTA 研修後におすすめ。

PTA 研修会でのテーマが、子育てについてでした。講師の先生から「10歳まではだっこが大事」の話や「背中が8割」というお話を聞きました。

研修会后に、子どもたちが考えた五・七・五への返事である下の句を書いてもらえるよう、学級通信でお願いしました。

以下のような子どもたちの作品も一緒に掲載しました。

- 抱きしめてくれるとき
- 一緒に遊んでくれるとき
- 家族みんなでご飯を食べているとき
- 家族全員がそろっているとき
- 自分のわがまを聞いてくれるとき
- やりたいことをやらせてくれるとき
- 不満なことを聞いてくれるとき
- 学校であったことを聞いてくれるとき
- 相談にのってくれるとき
- 勉強を教えてくれるとき
- 危険なときはとめてくれるとき

「子育ての話聞き、肩の力が抜け、素直に子どもの気持ちに返事を書くことができました。」「子どもとの関わりを振り返る良い機会になりました。」という感想をもらいました。

親守詩の取組事例

1 取り組んだ教科（領域、その他） 6年 国語

2 どう取り組んだか（どう指導したか）

6年生の場合は、親守詩を卒業式とセットにすると取り組みやすかったです。

- ① 卒業文集に入れる。
- ② 卒業式の日には保護者控え室に掲示する。

こうすることですべての家庭に取り組んでもらう必要性が増し、お願いがしやすくなりました。
2学期の学級懇談会で卒業文集についてお知らせした時に、親守詩のことも合わせてお願いしました。

国語の時間を1時間使って授業をしました。

その時に使ったのがホームページで紹介されていた親守詩テキストです。

これを印刷し、子供たちに配付しました。

このテキストを使って親守詩について教えた後、上の句を子供たちに書かせました。

学級通信にこの時の授業の様子を書いて紹介し、あわせて下の句を書いてもらうことも再度お願いしました。

全員文の親守詩が返ってきた段階で、子供たちに清書をさせました。

半紙を半分に切った用紙に小筆で清書させ、それを画用紙に貼って掲示しました。

この親守詩の作品は卒業式まで廊下に掲示され、当日は保護者控え室に貼られました。

卒業式とセットにし、親守詩を校内に掲示することで多くの子ども達、教員、保護者の目に作品を触れさせることができました。

「親守詩良いですね！」

「どうやってこれを思いついたの？」

こんな感想や質問が次々と私のもとに届きました。

親守詩の作品の持つ力のお陰だと思いました。

親守詩の取組事例

- 1 小学校6年生 特別活動、総合的な学習の時間
- 2 どう取り組んだか（どう指導したか）
卒業文集に載せることを前提に取り組みました。
大まかな手順は、以下の通りです。

- (1) 参観日に親守詩の授業を行い、子どもに五・七・五を作らせる。
- (2) 学級通信でお願いして、返歌七・七を書いてもらう。
- (3) 全員分を、学級通信で紹介する。
- (4) 卒業文集に掲載する。

<参観日の授業の様子>

- ①お家の方が、自分たちのためにしてくれていることを発表させる。
(できるだけたくさん発表させるようにする)
- ②感謝の気持ちを表すいろいろな方法を紹介する。
(直接お礼を言う、親子の手紙のやりとりなど)
- ③親守詩の紹介を行う。(感謝と親心をやりとりする親子のキャッチボール短歌)
- ④親守詩の練習をする。
<初級編> お母さん () ありがとう
※ () の中に言葉を入れて発表させる。
<中級編> お母さん 毎日せんとく ()
※「ありがとう」以外の言葉を考えさせます。
<上級編> いってらっしゃい その一言が 元気をくれる
※お父さん、お母さんや、ありがとうを使わずに感謝を表す
- ⑤自分の親守詩を考える。
- ⑥考えた親守詩(五・七・五)の部分を発表させる。

家族が自分のためにしてくれていることに気づかない子どももいます。授業の中で、いろいろな親の行動や思いをたくさん発表させることで、子どもたちの家族への感謝の気持ちが広がり、多様な親守詩が生まれます。

親守詩の取り組み 全校朝礼での取組

1 取り組んだ教科（領域、その他） 全校朝礼（20分間）

2 どう取り組んだか（どう指導したか）

【ねらい】

- ① 親守詩（おやもりうた）の内容（子どもが家族への感謝を表す川柳）を知る。
- ② 家族への感謝の思いを5・7・5で表現する。

活動内容	備考
(1) 親守詩とは ・家族への感謝の気持ちを表す川柳 ・5・7・5の17音で表す (2) 題材を考える ・お母さんのこと（仕事、洗濯など） ・お父さんのこと（仕事、遊びなど） (3) 川柳を作る ・おかあさん おいしいごはん ありがとう ・おとうさん おしごといつも いそがしい (4) 作ったものを発表する ・お母さん しあわせそうに わらってる ・父ちゃんと おふろで勝負 ゆびずもう	・筆記用具 ・親守詩用紙 ・簡単なプレゼン ・できた作品をいくつか紹介する

3 活動の様子（できた作品）

・1～6年生作品

おとうさんあそんでくれてありがとう	1年
おかあさんいつもせんたくありがとう	2年
お母さんいつもめんどろみしてくれる	3年
お父さんグレがくれたねまたつろう	4年
お母さん楽しいお話ありがとう	5年
お父さんいつもみんなを笑わせる	6年



4 考察

・ねらいについて

親守詩への関心：2年生以上は、昨年に続き、2回目の取組だったので、スムーズに活動することができた。

昨年の例を提示したので、それをもとに自分の家族について考えることができた。

1年生は初めてだったので、担任が話をしながら作らせた。

表現力：はじめは、例にあるように「ありがとう」を含む表現が多かったが、時間の経過に伴い、自分らしい表現も見られるようになった。低学年は、自分の家族に対して素直に感謝の気持ちを表現することができたが、高学年には、少し戸惑う姿が見られた。

・指導について

俳句活動の経験から、「5・7・5」の表現については、特に大きな問題もなく、取り組むことができた。ただ、個別な指導が十分でなく、この時間では作ることのできない児童もいた。事後に個別指導をし、全員が一句は作ることができた。

・その他

今回作った上の句に続く下の句を家族の皆さんに作っていただいた。

- ・おかあさん もんくを言って ごめんなさい 文句に応戦 大人げないね
- ・マッサージ いつでもするよ かたこりだ 手の温もりが 心もほぐす
- ・母ちゃんの 働く姿 あこがれる やりがいの背中 生きがいの君へ

絆を確かめ、地域に発信する親守詩の取り組み

1 取り組んだ教科(領域、その他) 中学1～3年 国語

2 取り組み

①教室中があたたかな笑いに包まれる親守歌の発表

お父さんへ 目をそらすけど 聞いているよ

クラスで一番の努力家A子さんの上の句。全員が作った親守歌を、私が読み上げるとき、いろいろな表情が生徒たちから返ってくる。真面目できちんとしているA子さんの、学校では見せない一面だ。

黙ったままの絆 ハーモニー

お父さんの下の句を読み上げると、クラス中があたたかな笑いに包まれた。「ハーモニー！」とA子さんを冷やかすやんちゃくん。照れながらも嬉しそうなA子さん。親守歌には親子のドラマがあらわれている。

②「下の句どれがいいですか？」

生徒が作った上の句に対して、「下の句を作って下さい」とお願いしたところ、Bくんのお母さんからお便りが来た。ずらっと並んだ5つの下の句。「先生、選んで下さい」と書いてあったので、Bくんと一緒に選ばせていただいた。

僕よりも 寝るのが早い 一馬力

やんちゃなBくんが、朝早くから年中無休で働くお母さんに見せた気遣いだ。

あなたは昼寝 黒板見とけ!

お母さんのユーモアに脱帽した。この下の句を選んだBくんは満面の笑顔だった。私は二人の掛け合いの面白さが好きで、この句で密かに入賞をねらっていたのだが、県大会で優秀賞に選ばれたのは、Bくんのもう一つの作品だった。

げんこつが 飛んで来すぎて 記憶飛ぶ
記憶飛ぶ? 覚えているから 大丈夫

一人2作品まで出品できるのも、親守歌県大会の魅力だ。

③山村留学生の親守歌

本校は山村留学の受け入れ校である。都会地から親元を離れ、山村留学センターや地元の農家さん宅から通学する。自分のことは自分でする、自立を目指したハードな生活だ。山村留学の様々な自然体験により、林業を志すようになったCくん。

山留に 来させてくれて ありがとう
ここでの経験 未来へつなげ

震災で東北から転居し、山村留学で親元を離れてがんばっているD子さん。

父と母 私の居場所 ありがとう
あなたの笑顔が 家族を繋ぐ

悩んでいるときにお母さんからかけられた言葉があるそうだ。「ここにも福島にもあなたの居場所はあるよ。」この言葉に力をもらい、また立ち上がったD子さん。歌の背景には素敵なエピソードがある。

④「親守歌、書けません。」頑なだったE子さん。

「先生、私、親守歌書けません。親への感謝はありません。」と言い張るE子さん。彼女も山村留學生で、長く親元を離れ、「会えるのは学期に数回と長期休みだけ」という生活を送っていた。締め切りを過ぎて渋々持ってきた上の句に、お母さんが下の句をつけて下さった。

たまに会う そのたび隠す 照れ笑い
最後はいつも 感謝の言葉

言葉が思いと裏腹になったり、素直に気持ちを伝えられないことがある。「NPO理事長賞」の盾を受け取ったE子さんの笑顔が輝いていた。中学生の親守歌に触れていると思春期ならではのユーモアや繊細さ、葛藤が伝わってくる。皆、予想以上に真剣に書いてくることに驚く。思春期だからこそ、親守歌に取り組みせたい。

⑤文化祭で地域に発信

昨年度は、3年生全員の親守歌を文化祭で掲示した。応募用紙をピンクの紙にコピーし、千代紙で周囲をデコレーションしたものである。折り鶴を飾ったり、カラフルな型抜き画を貼り付けたりと、それぞれが工夫を凝らした。

文化祭当日、A子さんのお父さんに授業での発表の様子を伝えると、照れながら喜んで下さった。Bくんのお母さんとおばあちゃんと一緒に、作品を前に大いに盛り上がった。作品を一つひとつ写真に撮っておられた姿が印象的だった。

地域の方からたくさんの感想をいただいた。親守歌を通した、楽しいふれあいの時間であった。下級生の反響も大きかったので、今年度は全校で親守歌に挑戦する。

これからも親守歌で親子の絆を確かめ、地域に発信し、ふれあいを大切にしたい。